

# Link

Vol.9

May.2019



【特集】ボーダーレス  
からやかなる、越境者たち

## BORDER LESS

プロボクサー 伊藤 雅雪

大学生プロゲーマー 立川 透

仏教学部 村松 哲文 ゼミナール

## CONTENTS

- 2 **[特集] ボーダーレス**  
 かるやかなる、越境者たち  
**BORDER  
 LESS**  
 Special Interview  
 プロボクサー  
**伊藤 雅雪**  
 大学生プロゲーマー  
**立川 透**  
 仏教学部  
**村松 哲文** **ゼミナール**
- 14 **[研究を極める]**  
 経営学部 市場戦略学科 教授  
**青木 茂樹**  
 青年のマーケティングへの興味は  
 流通研究、そして地域活性化へ。  
 ヒトを未来に向けて元気にさせる。
- 16 **[名誉教授に聞く]**  
 名誉教授  
**瀬尾 育弐**  
 医用工学を追究する情熱  
 その根底には  
 「人へのやさしさ」が息づいている。
- 18 **駒澤大学の就職力**  
 求人企業は1万6,184社、就職決定率97.5%!
- 19 **駒大NEWS**  
**2018-2019**  
 スポーツ、文化、地域社会で、  
 駒澤大学が活躍しているニュースを一堂に!
- 22 駒澤大学開校130周年記念棟  
**種月館**  
 憩う、語らう、心開く。  
 「居」の空間としての  
 魅力を種月館に感じて。

# BORDER

# LESS

ボーダーレス  
 borderless  
 境界がない、国境がない、などの意。

特集  
 Special Feature

## ボーダーレス かるやかなる、越境者たち

人は誰でも、夢や目標に向かう中で  
 何らかの「ボーダー」を越える必要がある。  
 そこには「日本と海外」、「アマチュアとプロ」、  
 「疑いと真実」など、さまざまなボーダーが存在する。  
 ボーダーを越え、それぞれのジャンルで  
 活躍を続ける3人の「ボーダーレス」を紹介する。

## ボクシングの本場・アメリカへ行ったことが ボーダーを越える、決定的な出来事になった。

Special Interview 01

プロボクサー  
WBO世界スーパーフェザー級王者  
2013年 経済学部 現代応用経済学科 卒業

# MASAYUKI ITO 伊藤 雅雪

2018年、WBO世界王座を獲得  
「王者」というボーダーを越えた

2018年7月、伊藤雅雪選手は、アメリカ・フロリダ州のリングで、WBO世界スーパーフェザー級王座をかけて同級1位のディアス選手(フエルトリコ)と戦った。そして、大差をつけ初の世界王座を獲得した。

王座についた気持ちについて、「いろいろな縁があっただけのこと。自分一人の力ではない」と、伊藤選手。

この王座決定戦は「かなり厳しい試合になる」と、伊藤選手も覚悟していたという。なぜなら、そのときの王者・ディアス選手はプロの目から見ても、本当にうまいボクシングをする選手で、伊藤選手のチーム内でも「ディアスは絶対スターになる」と、一目置かれていたからだ。ディアス選手との試合が決まったとき、伊藤選手は「正直「これはヤバイぞ」って思いました。みんなもって世界ランクの低い選手と試合を組んでいるのに、なんで僕だけこんなヒカイチな選手と世界戦をやるんだ？」と、少し落ち込んだという。しかし、すぐに「やるしかない」と気持ちを切り替え、「勝ち負けをあまり考えず、後悔のない練習を重ねて、とにかく自分のすべてを出し切るためにリングに上がる」と、目標を定めた。

試合前には、「練習をやり切ったので、『もう勝っても負けてもOK』って感じになっていた」。そして、王座獲得に導く練習をサポートしていたのが、アメリカで活躍する二人のトレーナーだった。

2015年、トレーナーとの出会いが勝利のボーダーを越えるきっかけに

アメリカで世界王者になる3年前の2015年、伊藤選手はプロ初黒星となる判定負けを喫し、両親も反対していたため「ボクシングをやめようか」と考えていた。その負け試合は、「何か負けたような気がしない感じで、気づいたら終わっていた、スカッとしなかった」。翌日、この試合のトレーニングを1週間サポートしてくれたアメリカ在住の日本人トレーナーから電話があった。彼は「負けちゃったね。だけど、まだまだ強くなれるし、世界王座を獲得してから頑張った方がいい。アメリカへおいでよ」と言ってくれた。伊藤選手はアメリカ

同じ実力の選手だったら攻め続けた方が勝つ。  
勝ちにこだわった練習がどれだけできているかが重要。



カへ行き、二人のトレーナーのもとでトレーニングすることを決意した。

二人のトレーナーは、メキシコ人のルディコーチと、その弟子で日本人の大介コーチだ。伊藤選手は、「この二人は本場に選手のことを考えて、どんな小さなトラブルからでも選手を守ってくれる人たち。とても信頼しているんです」と、目を細めた。「それまで、一人でボクシングをやっている感覚だった」という伊藤選手は、ルディコーチと大介コーチに出会い、アメリカへ行き、ボクシングを越えた感じがしたという。「チームで戦うという感覚も得られたし、何よりも自分のボクシングが大きく変わりました」。

ルディコーチのトレーニングは非常に厳

しい。「最初、「こんな辛いことできないよ」と思いながらやっていましたが、繰り返ししていくうちに自分のボクシングが変わっていったんです」。そうして信頼関係が築かれていったから、ルディコーチのトレーニングを「やってやる」という気持ちになれる。

勝つために足りなかった「打つこと」  
練習を繰り返し、体にしみ込ませた

「勝つために足りなかったことは、打っていくことだった」と言う伊藤選手は、「それまでパンチをよけるのが得意だったので、パンチをもらわずに当てて勝つ、というスタイルだった」。的確なアドバイスをしてくれるトレーナーもいないまま、自分のボクシングスタイルで負けずに連勝していたため、「このスタイルでいいんだ」と、思っていたという。

そんな伊藤選手が世界王者になるために、ルディコーチが課したトレーニングは「接近戦」だった。「最初は全然できなかったですね。接近戦に慣れていなかったため、練習では殴られてばかりで。「やっぱり今までのスタイルでいいんじゃないか」とか「今までのスタイルを崩してまで接近戦を練習する価値があるんだろうか」と思ったこともありました」と振り返るが、このトレーニングが世界王

座決定戦の勝ちを引き寄せた。「試合をしながら、ルディコーチが考えた対策どおりにパンチが全部当たって「すごいな！」って、思いました」。

「何しろ、ワンツーしか打てないボクサーでしたからね」と、伊藤選手は笑う。「ルディコーチは「ワンツー打って、3、4、5、6とずっと打て」と、言い出した。その切り替えはけっこう難しかったので、アメリカへ行くたびにその練習をして、何試合もこなしながら自分の体にしみ込ませていく……という感じでした。

今ではもう、その方がやりやすいですけどね」。

ルディコーチは「できないことをできるように、ちょっとずつやり続けることが大事だ」と、いつも言っている。「僕はルディコーチを信頼しているのだから、言われたことをやれば「もっと強くなれる」とわかっている。だから、「ぎつくてもやるよ」と思えるんです」。ルディコーチとのトレーニングは、伊藤選手が第一線で活躍し続けるカギの一つなの



だろう。

アメリカで活躍し、周りから目標とされるプロボクサーとなった伊藤選手だが、2015年に初めてアメリカでトレーニングをしたときのことを思い出しながら、「当時と今の気持ちは、もう全然違います。その頃、自分がボクシングにかけていたものは、わずかだったと思う。今は自分にたくさんの人が関わってくれて、ボクシングが自分だけの問題ではなく、大きな責任を感じるよう

になりました」と、自信に満ちた表情を見せた。

日本人ボクサーはもっと海外へ出て  
ボクシングを越える活躍をしてほしい

「王座につけたきっかけは、2015年にアメリカへ行ったこと」と断言する伊藤選手に憧れ、今、アメリカへトレーニングに向く日本のボクサーもいるという。「いつもメキシコ人やアメリカ人とスパarringをしているので、たまに日本人とやると『日本人と一緒に頑張ってる！』みたいな感じがして楽しいですよ」。伊藤選手は「実際に日本人ボクサーがアメリカで認められることはすごく難しいんですが、それでも、日本人ボクサーはどんどん海外に出て行くべきだと思います」と、力を込めた。「もちろん、日本で活躍した方がいいタイプもいるんですが、日本だけでボクシングをやっていると、日本だけでしか認められないボクサーになってしまう。これから活躍する日本人ボクサーには、場所を選ばずにトライしてほしいと思います。今、僕はアメリカでも日本でも、活動する場所はどこでもいいと思っていますね」と語り、「でも、昨年末の試合を日本でできたことは嬉しかったですよ」と続けた。

憧れていた年末のメイン試合で  
人々に王者のファイトを見せる

2018年12月30日、年末のメイン試合として、伊藤選手の初防衛戦が組まれた。「年末のメイン試合は、やはり自分の中でも「憧れの舞台」だったので、ここ選ばれたということが素直に嬉しかったんです。同時に責任も感じました」と、思い返すように話してくれた。「日本でのメイン試合は、勝つだけじゃダメだって。入場から世界王者としてのパフォーマンスを見せて、試合では攻める。そうしなきゃ日本の人たちに僕のファイトが伝わらないのかな、とあって」。そして、「アメリカで試合をするときは、とにかく必死にやればいいと感じる。でも、日本での大舞台を任せてもらえたんだから、チャンピオンを演じ切り、その中で勝たなきゃいけない、と。そのまま考えて戦った試合でしたね」。憧れの舞台で初防衛に成功した伊藤選手は、また一つ世界王者としてのボクサーを越えた。

駒澤大学で出会った仲間がいるから  
自分はボクシングを頑張れる

WBOのチャンピオンベルトをもつ伊藤選手だが、学生時代の仲間と遊ぶ



Profile  
伊藤 雅雪

1991年東京都生まれ。駒澤大学高等学校在学中にプロライセンス取得。駒澤大学在学中の2009年にプロデビュー。第42代OPBF東洋太平洋スーパーフェザー級王者。現WBO世界スーパーフェザー級王者。

ときは「学生気分に戻れる」という。「彼らは僕の試合も見に来てくれますし、月一回ペースで会っていますね」。そして、「仲間と遊ぶ時間があるからオフを切り替えられるし、彼らがいなかったらボクシングを頑張れないかも」と、笑う。「現代応用経済学科で出会った仲間は本当に僕の財産ですし、駒澤大学という有名な大学を卒業したことはボクサーとして活躍する上でも、大きなメリットになっています」。

世界王者は最後に、「僕は駒澤大学から、たくさんのお話をいただいたと思っているんですよ」と、おしえてくれた。

「eスポーツの価値を向上させる」その目標がボーダーを越えさせた

「eスポーツの価値を向上させるために、プロゲーマーとしてできることは何でもやる」。それが、立川透さんのプロとしての信念である。

ビデオゲームの対戦で勝敗を競う「eスポーツ」は、世界的にその市場規模を拡大しており、2024年開催のオリンピック・パリンピックでは競技種目として検討されているという。立川さんは、eスポーツの中でも「格闘ゲーム」のジャンルで活躍するプロゲーマーだ。日本で大学生プロゲーマーは数えるほどしかおらず、立川さんはその一人。同じく大学生プロゲーマーのオオタニ選手（金沢星稜大）は立川さんとは幼なじみ。中学時代から毎日のように対戦し、スキルを磨いてきた盟友だ。さらに立川さんは国内でただ一人、プロチームと大学の公認サークル（駒澤大学eスポーツサークル）に所属し、活動しているプロゲーマーでもある。

立川さんは、2016年に富山県から上京して駒澤大学に入学した頃、あ

## 「プロゲーマーを否定された」悔しさが真のプロへと導いた。

Special Interview 02

大学生プロゲーマー  
Burning Core 格闘ゲーム部門所属  
グローバル・メディア・スタディーズ学部 グローバル・メディア学科 4年

# TORU 立川 透 TACHIKAWA

る大会で準備勝ち、それがきっかけでプロゲーマーになった。「東京に来るのも、一人暮らしも初めて、そんな中でプロになり、バタバタしていて勝てない1年でした」と言い、「でも、その頃はプロ意識が低かった。今思うと恥ずかしいです」と振り返る。

勝てないことに焦りを感じていたある日、TV番組でeスポーツのプロゲーマーが取り上げられていた。「コメントーターたちが、プロゲーマーの存在を否定するような発言をしていたんです。正直、傷つきましたね」。

自分の仕事を否定された悔しさがきっかけとなり、立川さんは本当の意味でプロとしてのボーダーを越える。「eスポーツや格闘ゲームの価値を向上させたい。そのために勝って、自分の発言力を高めることが必要だと思えました」。この目標が生まれてから「プロ意識」は大きく変化した。

近い将来、日本のeスポーツ界はボーダーを越え、大きく変化する

「日本はゲームを創ることがものすごくうまいですよ。だからこそ、どうしてそんな日本がeスポーツにおいては中国や韓国、アメリカに後れをとっているんだ、というはがゆさを感じているん



毎年、世界中を駆け回る。確かに忙しいけれども、学生とプロは両立できると次の世代の見本になりたい。

Profile  
立川 透

Pro Esports Team「Burning Core」格闘ゲーム部門に所属し、格闘ゲームプレイヤーの中でも、特に期待をされている若手プロゲーマー。駒澤大学を志望したのは「格闘ゲームサークルの先輩と対戦したかったから」と言うほど、格闘ゲームに情熱を注ぐ。

です。「でも」と、立川さんは顔を上げ、「格闘ゲームに関しては、世界で一番強いのが日本です」と誇らしげに微笑む。続けて、「格闘ゲームからさまざまなことを学べるんですよ。例えば、目の人との接し方や、負けたとき「次に勝つための」トライアルアンドエラーの思考とか、「勝つぞー」っていう反骨精神みたいなものも。それに、「コミュニケーション」能力を磨かないと対戦してくれる相手がいなくなり、練習もままならなくなるので、すごく社会勉強になると感じています」。そして、「子どもたちはもうそのことをわかっています。だから近い将来、日本のeスポーツ界は変革され、今あるボーダーを越えますよ」と目を輝かせた。「僕たちプロゲーマーは今、将来に向けての土台づくりをしているんだと思います」と、自分に言い聞かせるように語った。

勝敗というボーダーを越える感動  
それを人々に伝えていきたい

eスポーツの競技は反射が必要で、若いときにしか活躍できないと思われがちだ。しかし、格闘ゲームは反射以上に、経験や読み合い、予測が勝敗を分けるものであるため、40代でも活躍が可能だという。「試合前、対戦者の過去の試合は絶対に確認しますね。反射や感覚だけでなく、普段からゲームに対して真摯に取り組む姿勢が大事なんです」。

昨年、「勝ち負けというボーダーを越えた」感動の試合を体験している。フランスで行われた大会の優勝決定戦で、盟友オオタニ選手と対戦することになったのだ。「まさか、お互いが大学生プロゲーマーになって、数万人もの人々が見ている中、対戦するなんて！」、震えるような感動があった。「結果、僕は勝てたんですが、プロとしてはいい試合で、ゲームを通してオオタニと会話しているような感じだったんです」。

「勝敗というボーダー」を越えた感動を経て、立川さんは「ゲームには、こんなにすごい感動が得られる、与えることができる力があるということの人々に伝えたいと思いました」と力強く語った。

昨年12月、「駒澤大学 学長奨励賞」を受賞した。「プロゲーマーを表彰するなんて駒澤大学だけかもしれないですよ。『なんてセンスのいい大学だ！』と感じ、入学して良かったと思えました。eスポーツの価値向上を目指し、このような先例をつくっていくことも目標の一つです」と語ってくれた。

村松ゼミの目的は  
「真実を見る目」を養うこと。  
現場に足を運び、多面的に調べる  
その行動力を大切にしている。

Special Interview 03

仏教学部

# TETSUFUMI 村松 哲文 MURAMATSU ゼミナール

研究というボーダーを越えること  
それもまた、研究者の務めである

「駒澤大学でのゼミを、自分も楽しんでいる」という村松教授は、「人々に仏教美術や仏像をわかりやすく伝えよう」としている研究者の一人である。一見してマニアックでとっつきにくいと思われがちな仏教美術や仏像を「人々にわかりやすく近づける」、そのボーダーを越える方法について村松教授は「自分自身が研究を楽しむこと」と語る。

仏教美術の研究者の多くは仏教美術や仏像が大好きで、論文や本を書き、研究会や学会を開いて、専門家にかかわらないような活動をする傾向にあるという。もちろん、それは学問を深めていくためには重要なことだ。「しかし」と、村松教授は語り始めた。「自分たちが楽しく研究していることを、もっと一般の人にも伝えなければならぬ」と思っています。私が学生のときの指導教授が「勉強や研究をして、あるところまで行ったら社会に還元しない」とおっしゃったことが、今も心の中に生きています。ですから、自分の研究をしながら、仏像を見る面白さやお寺に行く楽しさを皆さんに知ってもらったことが、

私がしてきた研究を社会へ還元する一つの方法だと考えています」。

教える側が研究を楽しんでいると  
学生にその想いは伝わる

「実は仏像の話は、難しい言葉で説明する方が簡単なんです。でも、社会へ還元するときは、それをいかに簡単な言葉で話そうか、ということを中心に留めながら、学生に仏像の楽しさを伝えようと努力しています」。そのためには「好きな仕事を楽しくやろうと思うこと」が大事で、自分が研究を楽しむと、人にもその楽しさを伝えられるのではないかと語る。そして、「それは、ゼミや授業で教えることも同じです」と教授は言い切る。「教える側が自分自身も楽しく研究をして、学生に楽しく面白い話をして注目してもらおうと思うと、多分、その気持ちは伝わると思っています。そのことを心がけて教えています」。

ゼミ生には、多面的に見ることの  
大切さをしっかり伝えていきたい

村松ゼミは「仏教美術史研究」をテーマとしているが、ゼミ生について教授は、「仏教を思想だけでなく、形の上からも捉えようと考えている学生が集

村松ゼミは、信仰に切り込んだ深い話ができる。  
これからもゼミ生と「真実」の探究を楽しんでいく。

「目的もあるんですよ」と語った。ゼミ生の伊東さんは「多角的見地から調べたことを学んだ」、古田さんは「さまざまな文献から論拠を導くことを教えられた」と言う。

「自分が真実になる」ためには、「世の中の真実を見て、自分自身に気づくこと」と、教授は説く。「真実」のボーダーを越えると「素のままの自分で生きていけるので、後悔しない人生を送れるというか、そこにつながっていくと思っていますね。ゼミを通して、そのようなことも感じてもらえたらいいですね」。須田さんは「思い返すと、先生がゼミの中で『真実』を見せよう、伝えようとしていたことを実感します」と話している。

**仏像に手を合わせることからボーダーを越えた意識をもてる**

さらに教授は、仏像に手を合わせることは「自分が真実になる」ことだと語る。「仏像に手を合わせますね。多くの方が、その瞬間に何か願うことをしていると思います。そして、その瞬間の願いごとこそが、その人の『真実』ではないでしょうか」。そのため教授は、仏像に手を合わせたときに「ボーダーを越えた」瞬間だ、とも言つ。

「人に言わなくていいので、仏像に手を合わせた瞬間『自分は何を願ったのか』を認識してみてください。きつとそれが素の自分であり、その願いに向けて努力していけば、真の自分になれると思いますよ」と、話してくれた。

**宗教的・仏教的視点から語り合えるそれが駒澤大学のゼミの魅力**

駒澤大学で仏教美術のゼミを展開し、ゼミ生と研究することを「私は大いに楽しんでいるんですよ」と言う。なぜなら、他大学や学外のゼミナーなどで授業や講座を行う場合は、講座名を「東洋美術」と称することも多く、宗教的・仏教的な深い観点から話することが、どうしても少なくなってしまうからだ。

しかし、駒澤大学の授業やゼミは、思い切り信仰という面にも切り込んで、専門的な深い知見から話をすることができる。「ゼミ生はみんな仏教的知識の素養があるので、例えば『華嚴経』と言っただけでも、その背景を理解した上で話し合うことができるため、ともに研究しやすいですね。それは駒澤大学の大きな魅力だと確信しています」と、教授はゼミ生たちの顔を見ながら微笑んだ。



Profile

村松 哲文 仏教学部 教授

1967年東京都生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。早稲田大学会津八一記念博物館を経て、駒澤大学仏教学部へ。「たのしい仏像のみかた」など著書多数。

まつている気がします。多面的にモノを見るのが好きな学生が多いのではないかと思いますね」と話す。

「仏教美術や仏像を観る目を養うことも大切」としながらも、教授は、仏教や仏像という枠を超え、儒教や道教の観点から仏教美術や仏像を研究していくと、新しい視点が見えてくるはずだ、と言う。「一方からだけでなく、さまざまな方向から物事を見ることの大切さを、ゼミ生には知ってもらいたいと思っています」と、話してくれた。

さらに、「村松ゼミでは、一步踏み込んで、仏像について自分自身で文献をひもとして調べるなど、専門研究に足を突っ込むところまでやってもらいたい」と、少し厳しい表情も見せた。

**フィールドワークは、ゼミ生が研究のボーダーを越える扉となる**

ゼミ生が「研究の一步を踏み出す」ために、「現場主義」の村松教授はフィールドワークを多く取り入れている。

その一つは、実際に仏像を見学することである。都内の博物館で仏教美術の展示会を開催しているときなどはゼミ生と訪れる。「実物を見ないとわからないことがたくさんあります。例えば、一つの仏像の中にもわずかな色の違いがあつ

たりすると、『その二箇所はつくられた時代が違うのではないかと推察したリ、写真だけではなかなかわからない点が見えてくるのです』。そして、ゼミ生に「仏像の表裏を見なさい」と言っている。「表だけでなく、側面や裏を見ることも非常に重要なことです。時代性はさまざま箇所に見えますから」と、語る。ゼミ生の前原さんは「展示された仏像を見るときは、その解説も疑いなさい」と言われたのが印象的でした。室橋さんは「実物を見ると、仏像に対する実感が大きく変わるんですよ」と話した。

「多角的に見る」眼を養うために、ゼミ生と裁判所へ行き、裁判を傍聴することもある。「例えば、新聞に載るような殺人事件を傍聴したとします。すると、殺人に至るまでに大変込み入ったいきさつがあったことや、実はその人と思うやさしさから殺すことを決意してしまったなど、新聞に載っていない部分までわかることがたくさんあるのです。殺人は確かに悪いことなのですが、『悪い』という一言では片付けられないものがあることを知るなど、『世の中というのは、一面だけで見てはいけません。いろいろな部分から多角的に見ていくべきである』ということを実感できます」。実際、裁判を傍聴して「目を覚

まされた」と言うゼミ生も多い。細江さんは「フィールドワークを通して、多面的な見方を身につけることが重要だと実感しました」と話す。

これらのフィールドワークの後、ゼミ生は「学修」から「研究」へとボーダーを越えるのだという。

**実物を見ることは、真実を見ることそれは将来を生き抜く力につながる**

教授は、実物を見ることはボーダーを越えて「真実を見る」ことだと言う。そして、「村松ゼミのフィールドワークは、ゼミ生の研究のためだけではなく、皆さん。将来、彼らが社会に羽ばたいていったとき、社会を多角的に見てしっかりと生きていく知見を身につける、とい



ゼミ生の声  
(写真左順)

4年 / 須田 尊

先生の授業やゼミは面白くて、「先生は本当に好きなことを研究しているんだな」と感じています。

4年 / 室橋 一弘

先生から仏像の見方を教えていただいて、自分でも新しい発見が感じられるようになりました。

4年 / 伊東 丈

深く調べ、自分の言葉で語ることの大切さを先生から学びました。それは社会でも武器になると思います。

大学院 修士2年 / 前原 知世子

先生は大事なことを何度も言われます。何度も聞いた「多面的に見ることの大切さ」を忘れないようにします。

2019年卒 / 古田 泰隆

卒論を書くにあたり資料を紹介してくださったり、丁寧なご指導が印象的でした。

2019年卒 / 細江 達之介

実際に裁判を傍聴すると驚きも多く、「真実を見る目」を鍛えるためにとても有意義なゼミだと思っています。

STORY  
恩師からの手紙

私は流通システム論を専門とし、「持続可能な生活創造へ向けたモノと情報の流通に関わる研究」とそのプロジェクト教育や社会活動をしています。

とはいえ、研究者になることが夢だったのではなく、築地や札幌の魚市場を遊び場に育ったので「僕も商人になる！」と言っていました。「商人になるからには商学部だろう」と、大学へ進学したのですが、4年次まで真面目な学生とは言えませんでした。友人と家庭教師派遣ビジネスをしていたんです。

大学3年の頃、ある起業家から「ビジネスは、つくる人・売る人・数える人の三つが大切」と言われ、「今の派遣ビジネスには、数える人がいない！」と思いました。そこで「商学部なんだから、大学で会計を学ばばいい」と気づき、授業に通ってみたんです。

後に恩師となる教授のマーケティングの授業を受けたら、すごく面白かった。教授に手紙で感動を伝えたら、すぐ「私のゼミに入れ」と返事がきました。4年次からゼミに入り、そのまま大学院に進学しました。

## 青年のマーケティングへの興味は流通研究、そして地域活性化へ。ヒトを未来に向けて元気にさせる。

ゼミ生の評価システムを自らつくり、自転車イベントで地域を盛り上げる青木教授。どのような興味をもって研究者となり、活動しているのか、教授の実像に迫る。



### SHIGEKI AOKI

Profile

1968年千葉県生まれ。慶應義塾大学院商学研究科博士課程単位取得退学。南カリフォルニア大学マーシャルスクールオブビジネス研究員、山梨学院大学教授を経て、2008年駒澤大学経営学部市場戦略学科教授に就任。サステナブル・ブランド国際会議を日本に誘致し、アカデミック・プロデューサーなども務める。

経営学部市場戦略学科教授

# 青木 茂樹



人々を引っ張っていくには  
明確なビジョンを示し続け  
モチベーションを生む仕掛けが大事。

体感したくなる。これから「ますます面白い時代になる」と確信しています。学生に伝えたいのは、「駒澤大学での4年間で自分の意識改革をしてほしい」ということです。私も大学時代、恩師と

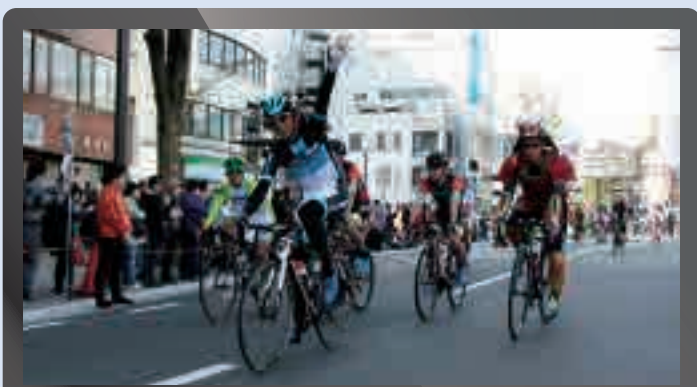
の出会いによって意識改革がなされたと思っています。駒澤大学の歴史・教職員・仲間から、未来創造に向けて共感できるものをご縁とし、自ら生き抜く知力・体力を養ってほしいですね。

STORY

### 多様な価値との衝突

消費者行動などを研究していたのですが、「三ツ子の魂百まで」と商人の血がうずいてきて、「やはり、モノの流れが重要」と、流通の研究を始めました。

山梨にいた2000年、大型店の出店規制がなくなりました。旧来の商店街は激しい競争にさらされるので、各地で「市町村を活性化させよう」という動きが活発になり、私は甲府市の中心地を活性化させる委員を務めました。地域住民や地域史の専門家、環境や交通の専門家と激論するうちに、「商業からの目線だけで見ていることに気づいたんです。そして、「郊外型大型店も魅力的だけれども、もともとその地域に根付いているものを日本の個性の一つとして残していけないだろうか」と考え、自分の気持ちも研究も大きく転換していききました。



NPO法人やまなしサイクルプロジェクトによる「信玄公サイクルロードレース」

STORY

### 地域を活かすツボ

「地域ブランド創造」の一貫で、「NPO法人やまなしサイクルプロジェクト」を理事長として立ち上げ、年数回のサイクルイベントを開催しています。年々規模が大きくなり、メディアの取材も入るようになりましたが、最初は地域の人たちも「こんな田舎に人は来ないよ」とあきらめていたんです。しかし、教育も地域活性化も要は「ヒト」ですから、「こうしたら地域が良くなるよ」とビジョンを示して、ヒトのマインドセットを変えること、さらにはエンパワーメント(個々が能動的に動くこと)が重要なんです。そのために大事なものは「新たなビジョンを示し続けること」なので、私は常に旗を振っているんです。

日本という国には、四季があり、食の楽しみがあり、そして何よりすばらしいのは、それぞれの地域に文化が残っているということです。これを観光に転換するために、足りないのは情報発信と英語だと思っています。それは今後、若い人たちにどんどんサポートしてほしいところです。世界では、ますます地域文化や食を楽しむツーリズムが広まっていくでしょう。情報を知るほど、人はその土地の風土を

STORY

### 未来を拓く個性

先日、「プロジェクトベースラーニングにおける相互評価によるルーブリック」を発表しました。これは、ゼミ生それぞれがアクティブラーニングを通して、どの能力がどれだけ伸びたかを評価するシステムです。なぜつくったかというと、グループ研究では、誰がどのような発言をし、研究を推進していったのか、各自のプロセスを知り得ないからです。そして、このシステムの本当の目的は、学生の個性を見出すことでした。私は、この評価をもとに一人ひとりと面談します。皆がまんべんなく優秀である必要はなく、「どこに特化しているのか、どこを伸ばしたいのか」を話し合い、「自分の個性を理解し、適合する仕事に就こう」と促します。なぜなら、「10年後に主流となる仕事の65%はまだ存在していない」と言われる世の中にあって、現在の尺度で未来の仕事を考えてはいけないと思うからです。重要なのは「自分の個性を知り、伸ばし、適合する仕事に就くこと」。「適合している」と思えば、未知なる職業にも挑戦し、創造し、活躍できる、そういう能力を育てたいと思っています。



「プロジェクトベースラーニングにおける相互評価によるルーブリック」画面(抜粋)



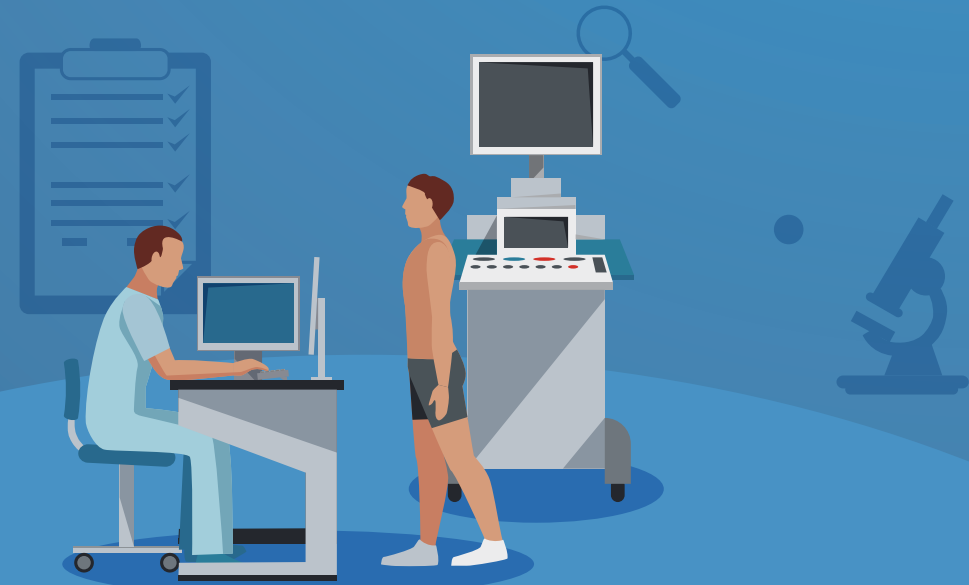


# ME?

Medical Engineering

医用工学を追究する情熱  
その根底には  
「人へのやさしさ」が息づいている。

著名な医療工学者である  
瀬尾名誉教授の足跡をひもとくこと。  
それは、超音波診断装置の進化と  
日本における普及を知ることでもある。



多くの実績をもつ医療技術者が  
優れた診療放射線技師を養成

瀬尾名誉教授は、超音波診断装置  
など医療技術の研究・開発で数々の実  
績を打ち立てた医療工学者であり、  
2005年には「腹部用超音波血流イ  
メージング装置の開発」によって紫綬褒  
章を受章している。一昨年まで、医療健  
康科学部で診療放射線技師の養成を  
行い、現在も乳がん検診システムの画質  
を高める研究を続けている。

超音波診断装置、普及の力ぎは  
センサーの技術と高い画質

1975年、瀬尾名誉教授は東京  
芝浦電気（現・東芝）に入社し、超音  
波診断装置の研究・開発を始めた。

う特長があります。

しかし以前は、マンモグラフィでの  
検査が主力、という時代だったんで  
ね。今、やっと時代が変わってしま  
した。患者さんが苦痛を感じることな  
く、しかも早期発見できる装置を目指  
したい」と語る。

失敗からのアプローチを考える  
その重要性を学生に教えたい

診療放射線技師でも乳がん検診が  
できるシステム開発を目指している中、  
「乳がん検診の受診率を高めたいわけ  
ですが、現在、医療現場では超音波検  
査技師の数が足りていないため、女性  
にやさしい超音波システムでの検診が  
行き渡りません。超音波検査技師の能  
力が病気の発見を左右するため、診療  
放射線技師でも的確に検診できる超  
音波の自動検診機器が必要だと思っ  
ています」。

そのために、乳がん検診システムの画  
質を上げる研究を行い、医療技術の進  
化につなげようとしている。

「研究の9割は失敗。でも、失敗から  
のアプローチを考えることが人生におい  
ても大事です。9割の失敗を1割の成  
功に活かしてほしい。それを学生たち  
に伝えたいですね」と結んだ。

れた「患者さんのことを第一に考える」  
という言葉に胸に刻み、開発を続けて  
きたのだという。

近年は乳がん検診超音波システムの  
研究・開発を行ってきた。「人にやさし  
い装置をつくる、それが大事なんです。  
例えば、マンモグラフィという乳がん  
検診装置は女性に苦痛を与えてしま  
います。一方で、超音波システムは患者  
さんに苦痛がなく、特に若い女性の乳  
腺組織の中の腫瘍がわかりやすいとい

当時、この装置は診断に使える画質  
ではなかったため、日本ではほとんど普  
及していなかった。開発に向けての難題  
は、「センサーの技術をいかに高めるか」  
だった。この課題に取り組み、1977  
年頃からリアルタイムの画像を映し出  
せるようになったため、急速に医療現  
場へ普及していった。そして、1985年  
頃からのデジタル化が画像の精度を高  
め、画像処理もやすくなった。

「見えないものを可視化する」  
その面白さが情熱を突き動かす

2005年頃よりMRIの研究・開  
発を手がけるが、そこには「虚血性心疾  
患で命を失う人を減らしたい」という想  
いがあった。「冠状動脈の詰まりを早期  
発見するために超音波の研究をずっと  
やっていましたが、うまくいかなくて。超  
高速のMRIならできるかもしれない、  
と思って取り組みました」と振り返る。

研究を続ける理由は、「見えないも  
のを可視化する」ことの面白さに魅了  
されているから。「見えないものが見え  
たりするとね、それは面白いですよ。今  
度は『血液の流れを可視化してやろ  
う』とか、どんどん研究意欲が湧き出  
てくるんです」と微笑んだ。

さらに、東芝時代の先輩から教えら

「患者さんのことを第一に考え、人にやさしい装置をつくる」  
先輩から受け継いだ言葉を忘れたことはない。



Emeritus Professor

## YASUTSUGU SEO 瀬尾 育式 名誉教授

Profile

1975年慶應義塾大学大学院工学研究科修士課程を修了し、東京芝浦電気株式会社（現・株  
会社東芝）に入社。1998年東芝医用システム社医用機器・システム開発センター超音波開発部  
主幹、2003年東芝メディカルシステムズ超音波事業部超音波開発部主幹を経て、2005年東芝  
医用システムエンジニアリング参事を務める。同年、紫綬褒章受章。2007年駒澤大学医療健康科  
学部教授となる。2017年駒澤大学名誉教授となり現在に至る。文部科学大臣発明賞（2003  
年）、文部科学大臣賞（2004年）など受賞多数。

# 駒大NEWS

2018-2019

スポーツ、文化、地域社会で、駒澤大学が活躍しているニュースを一堂に!



Ekiden



Football



Baseball

## スポーツ、文化・教育、社会貢献に日々の努力が活かされる

### 陸上競技部

#### 「第95回箱根駅伝」総合第4位

1月2日(水)〈往路〉・3日(木)〈復路〉に開催された「第95回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)」において総合第14位となった。

往路は、東京・大手町をスタート。神奈川・芦ノ湖に、第4位(5時間29分59秒)でゴールした。復路は、1位東洋大学から3分28秒差でスタートし、第4位(5時間31分6秒)となった。総合記録は11時間1分5秒で総合第4位。

#### 「第50回全日本大学駅伝」第4位

11月4日(日)に名古屋・熱田神宮〜伊勢・伊勢神宮(8区間106.8km)で行われた「秩父宮賜杯 第50回全日本大学駅伝対校選手権大会」において、5時間17分29秒で第4位となった。

#### 各種大会で活躍

・中村大聖選手(政治4)が「第22回日本学生ハーフマラソン選手権大会」に出場し、1時間1分51秒で準優勝した。この結果、7月にイタリア・ナポリで開催される「第30回ユニバーシアード競技大会」ハーフマラソン競技の日本代表に内定した。

・片西景選手(地理卒)が「第63回金栗記念熊日30キロロードレース」に出場し、日本学生歴代2位となる1時間29分34秒で優勝した。

・大坪桂一郎選手(経済4)が「新潟ハーフマラソン2019」に出場し、大会史上日本人最高記録となる1時間2分17秒で優勝した。

・小原拓未選手(政治3)が「第41回読売犬山ハーフマラソン」に出場し、1時間3分52秒で優勝した。

### サッカー部

#### 「第92回関東大学サッカーリーグ戦」第4位

4月〜11月にかけて開催された「第92回関東大学サッカーリーグ戦」で第4位となった。なお、中原輝選手(経済卒)が「東京中日スポーツ賞」を受賞した。

#### 「第67回全日本大学サッカー選手権大会」準優勝

12月12日(水)〜22日(土)に開催された「平成30年度第67回全日本大学サッカー選手権大会」(インターカレッジ)で、12年ぶりに決勝に進出し、準優勝を果たした。なお、星キョーファン選手(法律4)が「ベストDF賞」を受賞した。

#### 「第42回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」ベスト8

8月31日(金)〜9月9日(日)に開催された「第42回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」に4年ぶりに出場し、ベスト8に進出した。

#### 中原輝選手(経済卒)がJ3 ロアッソ熊本へ新加入

Jリーグ3部(J3)所属 ロアッソ熊本に2019シーズンから新加入した中原選手はMF(ミッドフィルダー)を務め、中心選手としてチームの勝利に大きく貢献した。ロアッソ熊本には本学卒業生の原一樹選手、三島康平選手、野村政孝選手も所属している。

### 硬式野球部

#### 「平成30年度東都大学野球秋季リーグ戦」第2位

9月〜10月にかけて開催された「平成30年度東都大学野球秋季リーグ戦」において、7勝5敗1分の勝ち点3で同率1位となり、10月25日(木)に立正大学との優勝決定戦に臨んだが、惜しくも敗れ2位となった。

また、秋季リーグ戦では、辻本宙夢投手(政治卒)が「最優秀投手賞」と「敢闘賞」を、岡田耕太選手(市場戦略4)が2季連続の「ベストナイン」(一塁手)をそれぞれ受賞した。

# 駒澤大学の就職力

2018年度は1万6,184社から求人があった。就職決定率は97.5%。業界研究や各種資格試験、文章・面接対策講座など300にものぼる就職支援講座や希望者全員を対象にした面談など、一人ひとりの学生に向けたきめ細かなサポートが駒澤大学の就職力を支えている。

**就職決定率** 97.5%

**求人倍率** 5.40倍

**求人企業** 16,184社

直近4年、就職希望者の95%以上が就職している。

全国の大学求人倍率の1.88と比べ、3倍近い求人倍率だ。(2018年度卒業生対象)※出典リクルートワークス研究所

東京を中心に、全国各地の多様な業種の企業から学生一人当たり5.40社と多数の求人がある。

## 主な就職先

<b>■ 仏教学部</b> <b>神学</b> マルハン 日本郵便 静岡銀行 エイチ・アイ・エス 青山商事 警視庁 <b>仏教学科</b> 館能信用金庫 能美防災 いなば食品 日本通運 東日本旅客鉄道(JR東日本) 法務省 神奈川県警察本部 静岡県警察本部 本山安居	日本測地設計 長野日報社 東京国税局 防衛省 航空自衛隊 富岡町役場 鎌田市役所 福島市役所 日高市役所 愛媛県庁 <b>歴史学科</b> 東日本旅客鉄道(JR東日本) イトーヨーカ堂 タカラスタンダード 日本郵便 ANAエアポートサービス 東京スター銀行 公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会 東京都教育委員会 埼玉県教育委員会 長野県教育委員会 諏訪市役所 笛吹市役所 横浜市役所 鴻巣市役所	東京急行電鉄 富士通 リソノグループ リゾントラスト 共同印刷 マイナビ 横浜銀行 守谷商会 山九 伊藤忠食品 日本航空 ぐるなび 大塚商会 良品計画 JALスカイ 茨城県教育委員会 横浜市消防局 今治市消防本部 <b>商学科</b> タカラスタンダード リゾントラスト スターバックスコーヒージャパン アイリスオーヤマ タカラレーベン 第四銀行 いちい証券 北陸銀行 フジッコ 有限責任あずさ監査法人 丹青社 PALTAC TOTO 東京国税局 坂戸市役所 世田谷区役所 警視庁	東京国税局 千葉労働局 防衛省 航空自衛隊 千葉県庁 長野県庁 港区役所 伊那市役所 愛知県庁 群馬県警察本部 <b>法律学科フレックスB</b> KDDI 住友不動産 北越銀行 凸版印刷 日本郵便 ホーチキ タカラレーベン 練馬区役所 つくばみらい市役所 茨城県職員(警察事務)	<b>市場戦略学科</b> ファンケル ベンテック ゆうちょ銀行 広島市農業協同組合 千葉銀行 ゴールドウイン 三菱UFJモルガン・スタンレー証券 ローソン 東日本旅客鉄道(JR東日本) エフピコ エビーシー商会 凸版印刷 JT 川崎市役所 墨田区役所 警視庁 <b>医療健康科学部</b> <b>診療放射線技術科学科</b> NTT東日本関東病院 公益財団法人筑波メディカルセンター 学校法人慈恵大学 東京慈恵会医科大学 学校法人北里研究所 北里大学病院 島津メディカルシステムズ 国立大学法人東京大学 東京大学医学部附属病院 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 学校法人順天堂 順天堂大学医学部附属順天堂医院 国立大学法人東京医科歯科大学 国立研究開発法人 国立がん研究センター 東病院 千葉県職員(放射線技師) 新潟県庁	
<b>■ 文学部</b> <b>国文学科</b> 日本郵便 京葉銀行 第一生命保険 日本通運 ヤクルト本社 いちい証券 全日本空輸 千葉県教育委員会 埼玉県教育委員会 東京都教育委員会 神奈川県教育委員会 群馬県庁 中野区役所	<b>■ 社会学部(社会学専攻)</b> 静岡銀行 クラブツーリズム 富士急行 小学館集英社プロダクション 三井住友トラスト不動産 神奈川県警察本部 静岡県庁	<b>■ 社会学部(社会学専攻)</b> フランスベッド イトーヨーカ堂 七十七銀行 大和証券 日本郵便 アシックスジャパン ニチ学館 社会福祉法人川崎市社会福祉事業団 鳥取県庁 渋谷区役所	<b>■ 社会学部(社会学専攻)</b> 日立製作所 日本生命保険相互会社 日本航空 みずほフィナンシャルグループ サッポロビール 独立行政法人国立病院機構 世田谷区役所 千葉県庁 神奈川県警察本部	<b>■ 社会学部(社会学専攻)</b> リコージャパンクリナップ バイロントコホレーション ローソン 山善 三越伊勢丹 三井食品 セコム 積水ハウス エイチ・アイ・エス プーマジャパン 笛吹市役所 世田谷区役所 栃木県庁 警視庁 神奈川県警察本部	<b>■ 社会学部(社会学専攻)</b> 住友化学 三菱UFJ銀行 三井住友銀行 千葉銀行 佐賀銀行 静岡銀行 八十二銀行 大和証券 全日本空輸 東京急行電鉄 リコージャパン 日本航空 ゆうちょ銀行 ANAセールス 帝国データバンク 大塚商会 東京国税局 東京労働基準局 神奈川県庁 横浜市消防局 栃木県警察本部
<b>■ 経済学部</b> <b>経済学科</b> 星野リゾートグループ 日本年金機構 鹿児島銀行 プレス工業 岩手銀行 肥後銀行	<b>■ 法学部</b> <b>法律学科フレックスA</b> 日本マクドナルド 日本年金機構 日本旅行 アクセンチュア 学校法人日本医科大学 静岡銀行 伊予銀行 東京急行電鉄 扶桑薬品工業 関東信越厚生局	<b>■ 経営学部</b> <b>経営学科</b> 住友化学 三菱UFJ銀行 三井住友銀行 千葉銀行 佐賀銀行 静岡銀行 八十二銀行 大和証券 全日本空輸 東京急行電鉄 リコージャパン 日本航空 ゆうちょ銀行 ANAセールス 帝国データバンク 大塚商会 東京国税局 東京労働基準局 神奈川県庁 横浜市消防局 栃木県警察本部	<b>■ グローバル・メディア・スタディーズ学部</b> <b>グローバル・メディア・スタディーズ学科</b> 乃村工藝社 コーチ・ジャパン合同会社 株式会社NTT東日本・南関東 楽天 エイチ・アイ・エス エン・ジャパン 日本航空 凸版印刷 マイナビ 東京ガス 日本航空 パナソニックグループ JT 博報堂プロダクツ 全日本空輸 カカコム エイベックス・マネジメント 東京都庁 佐野市役所 熊本県警察本部		

(2019.3.31現在)

**山梨県・岐阜県・福岡県・福井市と学生UIJター  
ン就職支援に関する協定をそれぞれ締結**  
本学では上記に加え、栃木県、長野県、茨城県、新潟県、山形県、札幌市と既に就職支援に関する協定を結んでいる。



**文学部歴史学科の寺前直人教授が「第6回古代歴史文化賞 優秀作品賞」を受賞**  
「古代歴史文化賞」は、古代歴史文化に関する優れた書籍を表彰するもので、島根県・奈良県・三重県・和歌山県・宮崎県が共同で主催。受賞対象著作は、『文明に抗した弥生の人びと』（吉川弘文館）であった。



**文部科学省の「トビタテ」留学JAPAN日本代表プログラム」第9期生派遣留学生に氏家瑠美さん（GM4）と金澤麻衣さん（GM3）が、第10期生派遣留学生に大良萌々さん（歴史4）と矢野大樹さん（経営4）が選出**

このプログラムは、2014年からスタートした官民協働で取り組む海外留学支援制度。支援企業・団体からの支援・寄附により、官民が協働して将来世界で活躍できるグローバル人材を育成するもので、9期、10期と連続選出になった。



**法学部の梅川葉菜講師が「第35回大平正芳記念賞」を受賞**  
「大平正芳記念賞」は、「環太平洋連携構想」の発展に貢献する政治・経済・文化・科学技術に関する優れた著書・共著・編著に対して、奨励助成を目的とする事業。受賞対象著作は『アメリカ大統領と政策革新 連邦制と三権分立の間で』（東京大学出版会）であった。



**経営学部が世田谷区立駒沢小学校のサマースクールに企画参加**  
経営学部の5つのゼミが、世田谷区立駒沢小学校サマースクールのプログラムに企画参加。4回目の参加となった今回は、青木茂樹ゼミ、小野瀬拓也ゼミ、鹿嶋秀見ゼミ、中野香織ゼミ、渡辺伊津子ゼミがワークショップを企画運営した。



**経営学部の中野香織ゼミの学生が「第5回日本広告学会関東部会 学生広告論文賞」で金賞を受賞し研究機関誌に論文が掲載**  
受賞論文：「#賞賛獲得欲求 #拒否回避欲求 あなたはどちら派?—女性の承認欲求が広告評価・商品評価に及ぼす影響—」  
受賞者：北川佳奈さん（経営卒）、深井美里さん（経営卒）、棚橋菜子さん（経営卒）、佐藤優さん（市場戦略卒）、須田憲彰さん（市場戦略卒）



**湯浅亜実さん（英文文3）がブレイクダンスバトル世界大会で優勝**  
湯浅さんがスイスで開催されたブレイクダンスバトル世界大会「Red Bull BC One B-Girl World Final 2018」において、今回が初開催となった B-Girl（女子）部門で優勝し、見事初代女王に輝いた。



**空手道部が各種大会で活躍**  
「第62回全日本大学空手道選手権大会」で、「男子団体型」準優勝、「女子団体型」第3位、「女子団体組手」第3位。「第62回全日本学生空手道選手権大会」男子個人組手で、廣瀬光選手（仏教4）が第3位。「第29回関東学生空手道体重別選手権大会」で、「-60kg級」優勝 川島光矢選手（経済3）、「-75kg級」優勝 廣瀬光選手（仏教4）・準優勝 鈴木舜士選手（英文文3）、「-84kg級」優勝 三沢文哉選手（市場戦略3）、女子「-61kg級」準優勝 山口みなみ選手（経営4）。



**台湾・国立中央大学、フィンランド・ラッペーンラント大学とそれぞれ協定締結**



## 地域と連携した3つのイベントで社会への貢献を

❶ 「スポーツフェスティバル in 玉川」〈10月7日（日）〉

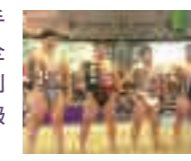
「地域は家族」をテーマに、大学と地域社会との交流および地域貢献を通じた課外活動による学生の自己形成促進、ならびに近隣にお住まいの方々への教育活動の機会提供を目的に3つの地域連携イベントを開催。世田谷区内の小・中・高校生や一般の方々を対象とする「スポーツフェスティバル」は今回で9回目を迎え、「スポーツ教室」や「体験会」、「地域運動会」を実施。このイベントは前年度に続き、(公財)東京

❷ 「こども大学 in 駒沢」〈7月29日（日）〉

❸ 「みんなの発表会 in 駒沢」〈3月17日（日）〉

オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会認定の「東京2020参画プログラム」として認定された。昨年度初開催となった「こども大学」では、16の学生団体が小学生を対象に「夏休み 自由研究プロジェクト」と題したプログラムを実施した。同じく初開催の「みんなの発表会」では、学生サークル13団体と地域サークル21団体が、各種展示や音楽、ダンスなどのステージ発表を行った。

**相撲部の小林亮太選手（国文卒）が「第43回全国学生相撲個人体重別選手権大会」無差別級で第3位**



**硬式テニス部の古川真実選手（社会卒）と清水里咲選手（国文2）が「平成30年度関東学生テニス選手権大会」女子ダブルスで優勝**



**日野勇人選手（経営4）と田村迅選手（経済4）が「平成30年度全日本学生テニス選手権大会」男子ダブルスで第3位**



**ボクシング部の嶋田淳也選手（歴史4）と長谷部大地選手（経済3）が日本代表に選出**  
嶋田選手が、ロシアで開催された「FISU第8回世界大学ボクシング選手権大会」のライト級（60kg）日本代表に選出。また、長谷部選手が、タイ王国で開催された「ASBCアジアエリート男女ボクシング選手権大会」のライトフライ級（49kg）日本代表に選出された。



**卓球部の渡井丈人士選手（経済2）が「平成30年度関東学生卓球選手権大会」で第4位入賞**  
この大会は、日本代表候補選手も出場する関東大学生ナンバー1を決める大会。4位入賞は本学史上2人目の快挙だった。



**陸上競技部の大八木弘明監督と片西景選手（地理卒）、空手道部の杉本りさ選手（心理4）が文部科学省スポーツ庁による「スポーツ功労者顕彰」と「国際競技大会優秀者表彰」を受賞**  
片西選手は「第29回ユニバーシアード競技大会ハーフマラソン」での優勝、杉本選手は「第10回世界ジュニア&カデット空手道選手権大会」組手の部での優勝が評価された。片西選手の指導にあたった大八木監督も、指導者としての受賞となった。



**駒澤大学高等学校の陸上競技部とサッカー部が全国大会出場**

陸上競技部が「第69回全国高等学校駅伝競走大会」に初出場を果たし、サッカー部は「第97回全国高等学校サッカー選手権大会」に2年ぶり4回目の出場。



## 東京2020大会を教育活動に活かす

**世田谷区立喜多見小学校で「オリンピック・パラリンピック教育」として体育の授業を複数回実施**

総合教育研究部スポーツ・健康科学部門の下谷内勝利教授と相撲部4人、同部門の岩本哲也准教授とサッカー部12人が、本学と喜多見小学校との地域連携事業のもとに同小学校が取り組む「オリンピック・パラリンピック教育」として、それぞれ体育の授業を実施した。



## 東京2020大会に関連した「学長課外特別講座」を開催

東京2020大会を契機とする社会発展に、本学と本学学生がどのように貢献できるのかを考察することを目的に開催。前期の「『ボランティアと未来の共生社会』について～東京2020オリンピック・パラリンピックと大学～」では、東京都知事の池田百合子氏、オリンピックメダリストの吉田沙保里氏、アテネオリンピック野球日本代表監督代行の中畑清氏を招聘した。後期の「『東京2020オリンピック・パラリンピックと未来の共生社会について～共生社会と大学～』」では、参議院議員で(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事の橋本聖子氏(附属苫小牧高校卒)、パラリンピックメダリストの村岡桃佳氏、馬島誠氏(法律卒)、東京都オリンピック・パラリンピック準備局パラリンピック部長の萱場明子氏を招聘し、パネルディスカッションなどを行った。

## 禅ブランディング事業 各種イベント開催

2018年度は、「梅花流詠歌による仏教讃歌」、「禅の国際化」講演会、「禅をきく会」、「連続講座・禅の歴史」、「禅と心」シンポジウム、「臘八摂心」、「禅の声」などを開催。また、禅ブランディング事業「公式インスタグラム」を開設した。



「禅ブランディング事業」WEBサイト



#### 空のテラス

5階のガラス戸を開けると日光や季節の風を楽しめる「空のテラス」が広がります。自然を感じながら、休憩するのが人気です。



憩う、語らう、心開く。  
「居」の空間としての  
魅力を種月館に感じて。

ラウンジで読書をしたり、テラスで季節の移ろいと友との語らいを楽しんだり、学生が伸びやかに、豊かなコミュニケーションを生み出す「居」の空間。充実した学生生活をサポートする「種月館」の魅力をご紹介します。

穏やかな佇まいの中に、  
禅の心が醸し出されて――。



#### ラウンジ「ウイステリア」

2階エントランスロビーには、広々としたラウンジがあり、学生の憩いの場となっています。

# SHUGETSU KAN

## 種月館

駒澤大学  
開校130周年記念棟

「知識基盤社会」構築のために求められる応用力・実践力を備え、  
協調的な人材を育む場として築かれた種月館。  
安心・安全で居心地が良く、日々の学生生活の拠点としての役割も担っています。



#### 情報グループ学習室

個別の研究活動から、ゼミやグループでのミーティングやプレゼンテーションもできるアクティブな学習空間です。



#### TOPICS

#### 「空」の理を「色」に寄せる

空の色の変化を「3階は紺碧」、「4階は曙」というように、各階のイメージカラーとして表現しています。仏教の教えにある「万物の在り様」に、種月館の空間で触れることができます。

#### TOPICS

#### KOMAZAWA CHANNEL

この春から、学生食堂「Kitchen駒膳」のモニターで流れているのは「KOMAZAWA CHANNEL」です。学生や卒業生、教員の活躍などをポップに紹介するプログラム。ご飯を食べながら、つい見入ってしまいます。

#### 学生食堂「Kitchen駒膳」

1,200もの席を有する広々とした学生食堂。ステーキやカレー、うどん、豊富なパンメニューが学生の食欲を満たします。



THE HISTORY OF  
KOMAZAWA UNIVERSITY

- 1592 文禄元年 ● 江戸駿河台吉祥寺境内に「学林」設立  
駒澤大学の前身である「学林」は、曹洞宗が禅の実践と  
仏教の研究、そして漢学の振興を目的として設立
- 1657 明暦3年 ● 吉祥寺駒込に移転、中国の名僧・陳道榮が「旃檀林」と命名
- 1882 明治15年 ● 麻布北日ヶ窪に校舎を新築して移転、10月15日に校名を「曹  
洞宗大学林専門学本校」とする
- 1905 明治38年 ● 校名を「曹洞宗大学」と改称
- 1913 大正2年 ● 大学を現在の駒沢（旧東京府荏原郡駒澤村）の地に移転
- 1925 大正14年 ● 大学令による大学として認可、「駒澤大学」と改称
- 1949 昭和24年 ● 学制改革により新制大学に移行、仏教学部、文学部、  
商経学部の3学部で再スタート
- 1951 昭和26年 ● 学校法人令による学校法人駒澤大学に組織変更
- 1964 昭和39年 ● 法学部を開設
- 1966 昭和41年 ● 商経学部を経済学部に名称変更
- 1969 昭和44年 ● 経営学部を開設
- 1982 昭和57年 ● 開校100周年
- 1992 平成4年 ● 「学林」設立以来400年を迎える
- 2003 平成15年 ● 医療健康科学部を開設
- 2004 平成16年 ● 大学院法曹養成研究科（法科大学院）を開設
- 2006 平成18年 ● グローバル・メディア・スタディーズ学部を開設
- 2012 平成24年 ● 開校130周年
- 2013 平成25年 ● 駒沢移転100周年
- 2018 平成30年 ● 開校130周年記念棟「種月館」供用開始



仏教学部／文学部／経済学部／法学部／経営学部／医療健康科学部／  
グローバル・メディア・スタディーズ学部／大学院／法科大学院

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1  
TEL.(03)3418-9828 FAX.(03)3418-9017

<https://www.komazawa-u.ac.jp/>

K O M A Z A W A  
U N I V E R S I T Y

Link

Link(リンク)には「人と人との繋がり」「伝統を繋げる」  
「地域と繋がる」という意味が込められています。